

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号 36

## I 自己評価

1 学校教育目標	文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 学校経営	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、全校生徒・保護者にアンケート回答用のURLを示し、インターネット上で各々が回答を入力することでデータを回収した。その結果、回答者数は、昨年度の約3.5倍の回答が得られた。来年度以降もインターネットでのアンケートを実施していきたい。</li> <li>・今回の分析結果により、生徒・保護者ともに、授業改善などによる学習指導の推進を期待していると同時に、ICTの利用や少人数教育など、個に応じた学習支援も一層推進することを望んでいることが分かった。</li> <li>・学校が積極的に取り組んでいる「探究活動」などの教育活動については、保護者に知られていない部分が多くみられることが分かった。コロナ対策を考慮しながらも、保護者への広報の必要性を一層強化する必要があると思われる。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学力の向上と進路希望の実現を目指します。</li> <li>2. 他と協働して主体的に課題解決に取り組む姿勢を育成します。</li> <li>3. 幅広いものの見方や奉仕の精神、健康でたくましい心身、規律ある生活態度を育成します。</li> <li>4. 働き方改革に努め、社会に開かれた信頼される学校づくりを推進します。</li> </ol>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画委員会及び職員会議、分掌会、学年会、教科会等での協議</li> <li>・学校運営協議会、PTA実行委員会からの意見</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科会及び学年会を通じて、コロナ禍における効果的な授業を研究、推進する。</li> <li>(2) 進路指導部と学年会との連携を強化し、生徒の進路実現を図る。</li> <li>(3) 総合的な探究の時間を有効活用して、キャリア教育を推進する。</li> <li>(4) 学校行事や部活動の時間を確保し、生徒自ら積極的に関わるよう支援する。</li> <li>(5) マナーと広い視野・豊かな教養を培うため、各種の講話や読書指導等を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学習アンケートや調査における数値の変化や生徒による授業評価</li> <li>(2) 進路達成状況及び実績</li> <li>(3) 生徒対象のアンケート結果等</li> <li>(4) 部活動の実績</li> <li>(5) 生徒・保護者アンケート結果や地域の方々からの意見</li> </ol>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教科会及び学年会を通じて、コロナ禍における効果的な授業を検討、実施</li> <li>(2) 生徒の実態に即した継続的な進路指導・キャリア教育の実施</li> <li>(3) 自主性を重視した特別活動の実施</li> <li>(4) 外部評価アンケートの結果や外部委員からの意見を、来年度の計画立案に反映</li> </ol>	①生徒が主体的に授業に参加、家庭学習が充実できたか。	A B C D
	②進路指導、キャリア教育の充実が図れたか。	A B C D
	③特別活動の充実が図れたか。	A B C D
	④PDCAサイクルに生かされたか。	A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍の中、リモート授業がシステム化され自宅待機の生徒への授業支援が推進された。</li> <li>○スクールポリシーにより、本校の育成ビジョンを示すことができた。</li> <li>○「探究活動」を学校運営協議会で示し、地域との繋がりを深めることができた。</li> <li>▲職員の働き方改革を図りながら、さらなる学校運営の充実を図る必要がある。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革を推進するため、分掌の再編等を含め校内組織体制や業務内容の見直しを推進する。</li> <li>・ICT環境を活用し、授業改善の推進と外部機関と連携した地域探究活動の充実を図る。</li> </ul>	
実施年月日：令和5年2月2日		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートをインターネット上での回答方法に変更したことはよかった。特定の人だけでなく多くの人々から意見を得られることは大切なことである。</li> <li>・今後も、職員の働き方改革に努めてほしい。</li> </ul>

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号	36
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	「文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇ 教務（教育課程・学習指導）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校評価アンケートでは、生徒保護者ともどの質問に対しても肯定的評価は50%程度、否定的評価は35%前後であった。主な質問内容は「授業の教え方や説明がわかりやすい」「総合的探究の時間や課題研究の内容は有意義である」「毎日の家庭学習時間を3時間以上確保できるように指導している」である。より一層授業内容の向上、学習への意欲向上を図る必要があると考える。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) ICT 機器を効果的に活用した授業や、家庭での学習につながる授業など、「授業改善」への取り組みを行う。 (2) 学年と連携して「手帳」の活用や自習室の活用を促すことで学習に対する啓発をすすめ、家庭学習時間や考査の点数等で学習の成果を再確認する。 (3) 学習アワーを補充学習の場と位置づけ、成績不良者への適切な対応を行う。 (4) 課題等の連絡を含め、行事などの学校生活の様子を HP の更新によって適宜発信し、学校の広報を行う。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	学年会、教科会を中心に教科の指導方法・評価方法等を協議する。また授業見学、授業評価等の実施により授業改善に努める。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 授業改善を目的とした授業見学および生徒による授業評価を実施する。	(1) 授業評価の結果、授業見学の相互評価の結果の分析及び生徒の取組状況が把握できたか。		
(2) 「手帳」を活用した指導を推進し、日常の学習状況の把握と生徒支援を行う。	(2) 学習時間の把握及び取組状況の観察ができ、学習への意識づけができたか。		
(3) 「総合的な探究の時間」の体制作りと学年会や分掌との連携を強化する。	(3) 連携して「総合的な探究の時間」の年間計画の作成および実施ができたか。		
(4) 学年会等との連携による成績不振の生徒や学校不適応生徒の早期指導を行う。	(4) 成績不振の生徒や学校不適応の生徒に早い段階で組織的対応ができたか。		
(5) 「学校案内」や説明会資料を作成し、中学校訪問等で配布する。またHPを活用した情報発信を積極的に行う。	(5) 学校説明の実施や「学校案内」等の配布、HPでの学校の様子等の発信ができたか。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 各教科に生徒による授業評価や授業見学を実施してもらうよう依頼した。	授業評価、授業改善の実施	A (B) C D	
(2) 授業やクラスで手帳の活用をはたらきかけてもらった。	「総合探究」の計画、実施	A (B) C D	
(3) 「総合探究」検討会で授業の計画、問題点等議論した。	成績不振者や学校不適応生徒への対応	A (B) C D	
(4) 成績不振者の放課後学習を実施した。また一部の生徒には学年と連携を取って指導を行った。			
(5) 中学校訪問、一日入学等で学校の様子を説明した。			
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業見学、授業アンケートの実施報告が完了していない。観点別評価と同時に生徒の自己評価、授業評価を実施していく。</li> <li>・ コロナの影響が続き欠席（出席停止を含む）がなかなか減少せず、オンライン学習支援を続けている。また集会等もオンラインを活用し、有効的な活用ができた。</li> <li>・ 文理選択で人数に偏りがあり、1クラス当たりの人数に差が出ている。より効果的な授業展開やカリキュラムを検討する必要がある。</li> </ul>		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科間の授業を通して、生徒の評価と授業評価を行えるような方法を検討する。</li> <li>・ ICT 活用の授業研究の機会を設け、教科間での情報交換や相互研修を行えるようにする。</li> <li>・ より効果的に手帳が活用できるよう、活用例を紹介するなどして生徒の学習意欲向上につなげる。</li> <li>・ 成績不振者や不登校傾向のある生徒の対応は、学年との連携をより一層密にして取り組む。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

・ 今後、コロナ前の状態に戻るかもしれないが、その際に家庭によってICT環境が異なると、受け取る情報量に差が出る可能性もある。全員が平等なICT環境を整えることも必要になる。

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号 36

## I 自己評価

1 学校教育目標	文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。			
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導			
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等		A+B	C	D
	・モラルやマナーの指導	65%	12%	11%
	・いじめに対する指導	66%	9%	8%
	・遅刻防止等への指導	65%	11%	8%
	・情報モラルへの指導	65%	11%	11%
	・生徒個々への相談体制	58%	16%	10%
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	規律ある高校生活と社会の一員としてのマナーを身に付けられるようにするために、以下の2点を目標とする。 ①遅刻：不注意による遅刻を一日当たり0.3件以下に抑える。 ②交通安全：交通ルールを守り年間の交通事故を10件未満に抑える。			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	①担任、学年団と連携し、遅刻の多い生徒に対し個に応じた生活改善の指導を実施する。 ②MSLによる街頭活動やポスター制作、LHRを活用し交通安全の啓発に努め、日常生活におけるルール、マナーを遵守する精神を養う。			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5分前登校のための遅刻指導</li> <li>・年4回の身だしなみ指導</li> <li>・スマホ携帯の利用についての指導</li> <li>・毎月一回以上のスクールカウンセラーとの面談</li> <li>・交通安全講話とMSリーダーズの交通安全啓発</li> <li>・いじめ迷惑調査及びLHRでの啓発</li> <li>・生活実態調査における生徒の状況把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者数及び遅刻の理由の把握</li> <li>・身だしなみ指導と事後指導の状況</li> <li>・スマホ携帯利用のマナーカードでの指導状況</li> <li>・スクールカウンセリングによる生徒の様子</li> <li>・MSリーダーズの活動状況</li> <li>・交通事故の件数</li> <li>・いじめの実態の認知状況とその対応状況</li> </ul>			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予鈴遅刻5分前の遅刻指導による遅刻の減少</li> <li>・交通事故防止の啓発活動の実施（MSL等）</li> <li>・いじめアンケート等によるいじめ未然防止</li> <li>・カウンセリングによる心の悩みのケア</li> <li>・スマホ携帯を利用しないことの啓発</li> </ul>	遅刻者の人数	A B <b>C</b> D		
	交通事故の件数	A <b>B</b> C D		
	いじめ認知と対応状況	A <b>B</b> C D		
11 成果・課題	○いじめ認知後の初動体制が完成しており、大事になる前に対応できている。 ▲遅刻者数は減少しているが、特定の生徒が繰り返す傾向にある。 ○黙食指導の副効果もあり、休み時間のスマホ利用によるマナー指導は減少した。 ○交通事故件数が減少し、重大事故も発生しなかった。 ▲SNSの内容に関する第三者からの心配の声があり、不快に感じる生徒もいるため、粘り強く指導を続ける必要がある。 ○相談員の配置により生徒の心のケアを年間で継続して行うことができた。		総合評価 A <b>B</b> C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルの指導については活動が保護者に伝わっていないと考えられるため、行事後にHPにアップし、すぐメールで周知するなどを行い、家庭でも話し合いの機会を作るように促す。1年生で指導の機会を増やす。</li> <li>・遅刻指導については、予鈴遅刻指導者のリストや、遅刻を繰り返す生徒のリストを学年会に提示し、連携してピンポイントの指導を行う。</li> <li>・相談室の利用ルールを作成する。</li> </ul>			

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

【意見・要望・評価等】
・遅刻の理由には、本人の問題、家庭の問題、心の問題などそれぞれの生徒にそれぞれの理由があるので、それを含めた上でサポートしてほしい。

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号 36

## I 自己評価

1 学校教育目標	文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>「よくあてはまる」「ややあてはまる」合計の比率 (%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は進路説明会など保護者が必要とする進路状況を提供する場を設けている。→ 保護者62% (前年72%)</li> <li>・学校は、生徒の進路希望に添った適切なアドバイスをしている。→ 保護者61% (前年64%)</li> </ul> <p>→生徒に対しての情報提供についてはそこまで大きな変化はないものの、保護者に対しての情報提供が1割下がっており、昨年度以上に進路情報の提供について告知をすすめていく必要がある。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの希望に細かく対応し教職員全員による指導を推進する。</li> <li>・進学校としての進学実績の向上と安定に努める。</li> <li>・生徒に生き方なり方を考えさせ、勤労観・職業観を育てるための活動を計画的に配置し実施する。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望する進路実現達成のための担任による個別面談の継続及び、全職員体制による小論文指導・面接指導・添削指導・補習授業等のきめ細かな進路指導を実施する。</li> <li>・学年会と連携を取りながら、総合的な探究の時間を充実させ、主体的な学習姿勢の涵養を図る。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①進路情報の提供や進学意識の喚起 大学説明会や出前講座、進学講演など ②学力向上のための指導 放課後補習、土曜講座、外部検定の指導、模試の実施など。 ③3年生の進路指導を学年の総意をはかりながら国公立大学の総合型選抜や学校推薦型入試に受験を促す。	①説明会等実施後の感想など ②補習・土曜講座の受講数、生徒の取り組みの様子について担当者の実感、模試の結果などの結果分析。 ③国公立大学の総合型選抜や学校推薦型入試の出願数および進学実績。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①大学説明会や進路講話を積極的に実施し、情報提供と進学意識の高揚を図る努力をした。	①有益な情報提供を実践し、進路意識を高揚させられたか	A (B) C D
②補習や模試、総合の時間を活用した進路意識と連動した学習意欲向上の取り組みを行った。	②学力向上の指導が実践できたか。	A (B) C D
③昨年同様に国公立大学の総合型選抜や学校推薦型選抜に出願する生徒が増えた。	③総合型推薦型の国公立大学出願数が増えたか。	(A) B C D
11 成果・課題	総合評価	
○3年生の進路実現のための進路実現戦略会議を行うことで、学年全体で個別生徒の進路実現に向けた指導を協働的に実践できた。 ○年2回の大学説明会の実施により進路について考える機会の提供ができた。 ▲総合的な探究の時間の進路に関わる活動について、模擬試験と連動しながら進路意識の向上を図るための更なる取り組みを構築していく必要がある。 △低学年次の進学意欲を高揚させる仕掛けが不十分であった。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年次に高い進学目標を設定できるような仕掛けを学年と協働して計画する。 →模試等を活用して、早い段階での目標設定と学習習慣や学習方法の見直しを図る。</li> <li>・1・2年次の総合探求の内容を学年と共有し、キャリア学習としての意義を高める。</li> <li>・総合型・学校推薦型選抜の実績を上げるために、経年での情報共有ができるよう資料の整理を行うとともに、他校の実践例などに学び、指導の方法を研究する。</li> </ul>		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

### 【意見・要望・評価等】

・地域課題研究は、人間力育成の中で非常に大切なものである。3年間をかけて何ができるかの流れが出来ており段階を踏んで学んでいくのでよい。この活動を保護者にもっと知らせることが必要である。

# 令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂高等学校

学校番号 36

## I 自己評価

1 学校教育目標	文武両道」の校風を生かして、「高い学力」「健康でたくましい心身」「豊かな人間性」を備え、自立した生徒を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの項目で評価が低い、感染症防止のため地域社会での活動が低迷しているのと、活動の紹介もできない状況下にある。</li> <li>部活動の環境面でも、狭く排水の便が非常に悪いグラウンドや、校舎改築のために活動場所がどんどん無くなっている状況である。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や部活動などを通して互いに協力しながら一人ひとりが活躍できる場面を設定し、コミュニケーション能力や社会性を育てる。</li> <li>部活動ガイドラインを踏まえた適切な活動運営。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の協力体制と生徒会との意思疎通の強化。</li> <li>各行事における部活動との連携。</li> <li>部活動年間計画や月間計画の周知。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 自主自立の精神で主体的・積極的に学校行事やその他の主体的な活動に参加できるよう支援する。 (2) 主体的な部活動運営	(1) 学校アンケート（保護者・生徒） (2) 生徒会意見箱への投書 (3) リーダー研修・部活動部長会議	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に体育祭。感染症防止・熱中症防止のため、半日での実施。生徒会執行部と団リーダーでの話し合いで、応援合戦は中止となった。</li> <li>9月の文化祭では、文化系部活動の発表が再開できた。</li> <li>コロナ禍でありながらも、実績を上げている部活動がある。</li> </ul>	社会情勢を踏まえた判断・行動ができたか。	Ⓐ B C D
	役割に応じた協力と主体性のある活動ができたか。	Ⓐ B C D
	生徒への支援が十分できたか。	Ⓐ B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒会執行部や各委員会が非常に主体的に積極的に活動し、どの行事もスムーズに実施することができた。</li> <li>○ リモート機材の工夫により、演劇部・吹奏楽部の配信も行うことができた。</li> <li>△ 6月の体育祭。今年はたまたま天候に恵まれた。9月の猛烈な残暑を考えると良かったのかもしれないが、夏を前に暑い日もあれば梅雨空が続く時期でもある。実施時期としては疑問が残る。</li> <li>また、年度が始まり様々な業務がある中、準備時間が無く非常に大変である。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ さらに生徒主体の学校行事の実施。</li> <li>◎ 体育祭のあり方の継続検討。</li> <li>◎ クラス劇発表用の機材の工夫。</li> <li>◎ 部活会計・クラス会計のルールの徹底。（事務部と連携）</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

【意見・要望・評価等
・文武両道の校風の中、学習面に力を入れるだけでなく、外部の協力を得ながら部活動も充実させて人間教育に力を入れてほしい。